

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	編輯室より
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 148: 62-62
Issue date	1912-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/9163">http://hdl.handle.net/2298/9163</a>
Right	

## 編輯室より

中心として願くば沈滞せる龍南思想界に一波をあげたい。而してかゝる根本的理解の上に立脚して、『校風問題』にも新らしい解釋を與へたい。大分、校風校風と騒ぐ人があるが、『校風とは何ぞや』と問ふときに、躊躇なく自己の信念の上に築かれたる明確なる答解を與へ得るものが幾何あるか。校風問題が一種の冷嘲を以て迎へらるゝ亦故なきに非ず。

○思ふ兄の論文は如何にも親切な注意が欠けてゐた様である兄の使用した言葉は果して君の思想を忠實に翻譯したりや否や。

○朔風、枯林に鳴つて、時下、恐らくは人に佳ならず、龍南思想界のため、畏兄の加餐を祈り、且つ拙論失言、徒に高見を収々したるを謝す、書窓聊か多忙を覚は、悠々閑筆を弄ぶに堪へず、願くば又之を他日に期せん、

初冬夜

重

喜。

△何時も出る愚痴であるが、豫算の金が不充分なるために、寄稿中の多くを割愛せねばならぬのは、甚だ遺憾ではあるが、暮々も按稿諸兄の諒察を乞ふ所である。

△物質的には多少縮少したけれど、材料、實質、内容に至りては寧ろ非常なる改善を施されたことは、手前味噌ではあるが、大に吾々の誇とする所なることを斷言する。

△吾々は嘗て屢々目撃した様な、唯煽動的なる惡口を好まぬ、寧ろ眞面目なる分子によつて、内容を充實せんことを常に則とするのである。

△本田部長の熱心なる御指導に對しては、吾々は殆んど感謝の辭を知らぬ、たゞ先生の御庇護によつて、自己の職責を完ふしつゝあるを感ずるのである。

△極寒方に至らんとするの候、切に諸兄の健在を躍進を祈る。大正二年を待ちつゝ深夜の星を仰いて——委員